

新米です。ご賞味ください

能登 いまい農場だより 10月新米号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。

能登地方ではほとんどの田んぼの刈り取りが終わっています。農水省発表の作況指数は能登が99となり、平年作となっていますが、農家間では、早生、中手(コシヒカリ)問わず、去年より1俵以上少ない(10a当たり)との評判です。5月6月がやや低温であったことが穂数不足につながり、8月中旬以降の長雨も影響しているようです。

当農場も収穫量はやや少ないものの、農薬防除なしで栽培でき、平成5年の冷害を彷彿させるような天候だったにも関わらず、きれいなお米にほっとしています。

ここ2~3日の間に、ぐっと朝晩の気温が下がり、我が家でも、こたつで暖をとるようになりました。

皆様いかがお過ごしですか？

■田んぼの生きもの達にとって、水は命の元

ゲンジボタルやヘイケボタル、アカトンボ類の幼虫、オオコオイムシ、タイコウチ、ミズカマキリ、マルタニシなど、多くの生きものは水や湿潤な土壌を好んで生きています。水田の乾田化は生きものたちにとって住みにくい場所となります。そのため、一部の田んぼで冬水田んぼをする予定です。収穫後の田んぼに水を張ることで、生きものたちが棲める環境を整えたいと思っています。もっとも、北陸地方では、これからの時期、雨や雪が降り、耕起しただけでも水のたまる田んぼがあるのですが。



■生きものたちと共生した米作りをスローガンに今年も収穫の時期を迎えています。

平右エ門有機栽培こしひかりは生育途中に多年生雑草のオモダカなどとの生存競争でしたが、収穫時の9月下旬にはオモダカが枯れて無くなり、平年並みに収穫できました。

平右エ門特別栽培米こしひかりはほとんどの田んぼで、無化学肥料・減農薬栽培(県標準9割減)で栽培しました。初期除草剤2成分入りを1回のみ散布、以後は農薬散布をしておりません。育苗時に有機肥料(魚粉が主成分)を追肥する作業が増えましたが、ほぼ順調に生育しました。やや収量が少なかったもののきれいなお米になりました。

今年から石川県の特別栽培農産物の認証制度が始まりました。



認証シール

当農場では、4月に申請し、7月の現地調査を経て認証されました。新米出荷の10月からシールを貼ってお客様にお届けします。申請、認証されたからには、出荷数量等の報告も当然義務付けられます。事務仕事も当然増えるのですが、お客様への安心・安全の一つの目安と思っています。

■大阪梅田の阪神百貨店には20年前から店頭で、「能登のこしひかり」として販売していたのですが、今年中に出向いて店頭販売キャンペーンを行う予定で計画を立てています。